



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2018年 No.2

(通巻55号)

4月8日発行

春爛漫。心華やぐ季節になりました。

皆様方にはお元気でお過ごしのことと思います。

今号のニュースレターは、2018年度年次総会のご報告を中心にお届けいたします。

また、あーすフェスタかながわ2018への参加もお知らせしておりますので、

皆様お誘い合わせて、ぜひお出かけください。

年次総会報告

去る3月11日（日）、相鉄線星川駅近くのほどがや市民活動センター（愛称：保土ヶ谷アワーズ）で、2018年度年次総会を開催しました。2017年度活動報告と2018年度活動計画の国外の部では、ディウフ会長より、写真やビデオを使つての説明がありました。また、ティータイムでは、差し入れのお茶とお菓子をつまみながら懇談ができました。

以下、主な内容をご報告いたします。

（1）バオバブの会の活動終了について

バオバブの会は、ディウフ会長が立ち上げた1999年1月より19年、会則などを整えて再スタートした2008年1月より10年を経過しました。サルム・ジャネ小学校1校への支援から始まった活動は、皆様のご支援・ご協力のおかげで、年々、支援先を拡大してきました。ケベメール市の女性グループ製作のバッグ・ポーチ（愛称：ケベサック）のフェアトレード・販売も、今年で満10年になります。国内活動も、多くの外部イベントに参加する他、自主企画として、福引きイベントを8回、セネガルミュージックライブを2回開催してきました。

このような活動の発展により、支援先の拡大に加えて、教育環境の改善による就学率アップや課程修了試験と上級学校入学試験の成績向上など、一定の成果を見ることができました。そこで、バオバブの会としてもまだ十分な余力があるうちに活動を終了しようと考え、以下のようなスケジュールを総会に提案し、承認されました。

*** 本年を含め3年間、つまり、2018年、2019年、2020年は活動を継続し、2020年末日をもって活動を終了する。**

*** 2021年3月の最終総会后、残金分配を含む残務処理を行う。2021年の年末までに、最終レポートを作成・送付する。**

また、この決定に伴い、今回、役員（運営委員、監査役）の改選を行わず、残務処理終了まで現在の役員体制を継続することが承認されました。

(2) 2017年度活動報告

国内活動

- *「よこはま国際フォーラム2017」2月5日(日) JICA横浜、「あーすフェスタかながわ2017」5月20日(土)・21日(日) あーすプラザ、「第5回GOSPEL FOR PEACE」6月3日(土) 新宿文化センター、「アフリカ日比谷フェスティバル」6月24日(土)・25日(日) 日比谷公園、ゴスペルスクエア渋谷スタジオ出展9月19日～30日、「よこはま国際フェスタ2017」10月8日(土)・9日(日) グランモール公園に参加しました。
- *バオバブの会の自主企画として「チャリティーライブ2017」を開催しました。
- *ニューズレターは、5号、発行しました。

国外活動

- *昨年と同様、サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ第一小学校、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校、バンブガール・マサンバ小学校、ンガティ・ナウデ小学校、ンガティ・オルディ小学校、サルム・ジャネ中学校、ジム・モマール・ゲイ中学校、サーバシ・チャム アラブ学校、障がい児を支援する教師の会、ユネスコ・クラブ(クール・マジヤベル聾唖学校)、に定期支援金を贈りました。
- *新たな定期支援先となった、ンジャゴ第二小学校とンジャゴアラブ学校に支援金を贈りました。
- *クール・アラサン・ジャロ小学校に、トイレ3基を新設しました。
- *自立支援として、バンブガール・マサンバ小学校の菜園計画を支援しました。

(2) 2018年度活動計画

国内活動

- *「あーすフェスタかながわ2018」、「ゴスペルスクエア10周年記念コンサート」、「アフリカ日比谷フェスティバル」、「よこはま国際フェスタ2018」などに出展を予定しています。
- *会主催イベントとしては、セネガル料理教室など小規模のイベントを開催し、2016年まで隔年に行ってきた福引きイベントは、来年度2019年に開催します。

国外活動

- *定期支援金については、支援開始後3年を目安に減額の方針にそって、ジム・モマール・ゲイ中学校の支援金を80,000円に減額します。その他、サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ第一小学校、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校、バンブガール・マサンバ小学校、ンガティ・ナウデ小学校、ンガティ・オルディ小学校には40,000円、サルム・ジャネ中学校には80,000円、サーバシ・チャム アラブ学校に20,000円、障がい児を支援する教師の会に40,000円、ユネスコ・クラブ(クール・マジヤベル聾唖学校)に50,000円を贈ります。
- *昨年度からの新規支援校、ンジャゴ第二小学校には50,000円、ンジャゴアラブ学校には30,000円を贈ります。
- *タタ・ロッヒンボウ保育園の開設支援として、70,000円を贈ります。
- *自立支援としては、100,000円を予定しています。

♥ タタ・ロッヒンボウ保育園について

ソコンは、セネガルの南西部、首都ダカールから車で5時間ほどのファティック州にある大きな町で、人口は約12,000人、主な産業は農業です。ディウフ会長は、小学校時代をこの町で過ごしました。

タタ・ロッヒンボウ保育園は、ソコンに住むディウフ会長の妹さんから紹介されました。昨年11月に創設され、園長と事務長、4人の保母さんで運営される私立保育園です。「タタ」はおばさん、「ロッヒンボウ」は人の名前なので、「ロッヒンボウおばさん保育園」ということになります。現在は33人の子どもたちが在籍していますが、ゆくゆくは、1歳半から6歳まで、年齢に応じた4つのクラスを作る計画です。一か月3,000Fcfa（約550円）の保育料がかかりますが、最近、ソコンのような地方の町でも外で働く女性が増えているので、保育の需要は大きく、母親たちから大変喜ばれているそうです。

開設したとはいえ、子どもたちの遊具、事務用品など、多くのものが不足している状態なので、開設支援として70,000円を贈ることになりました。

↓ 外観



↓ 門



↓ 手前は園庭。後方の建物が園舎。



↓ 子どもたち



イベント報告

よこはま国際フォーラム2018

<http://yokohama-c-forum.org/wpforum/>

日時：2018年2月3日（土）11:00～17:10、4日（日）11:00～19:20

（バオバブの会のセミナーは4日（日）13:10～15:00）

会場：JICA横浜

主催：よこはま国際フォーラム2018プロジェクト

（主催者構成団体：（特活）横浜NGO連絡会／JICA横浜／公益財団法人横浜市国際交流協会(YOKE)／日本赤十字社神奈川県支部／（特活）教育支援協会）

国際協力・多文化共生に関わる団体がセミナーやワークショップを開く毎年恒例のフォーラムにて、今年もディウフ会長がセミナーを行いました。今回のテーマは「イスラムと現代社会の両立」。第1部ではおもにシャリーア（イスラム法・イスラムの規律）について。定められ方、意外な柔軟性や現代性などをお話しました。休憩を挟んだ第2部は教育について。セネガルでの子どもやおとなへのイスラム教育を紹介し、イスラムと現代社会と両立させるためには、ムスリム教育だけでなくムスリム以外の人々への教育も必要であることをお話ししました。

イベント案内

あーすフェスタかながわ2018

<http://www.earthplaza.jp/earthfesta/>

日時：2018年5月19日（土）、20日（日）10:00～16:00

（世界屋台村での料理販売は11:00より）

会場：神奈川県立地球市民かながわプラザ「あーすぷらざ」（横浜市栄区）

主催：あーすフェスタかながわ実行委員会



世界各国の文化紹介や相互理解を目的としたフェスタに、今年も食販と物販で参加します。食販は会場入口右側の「世界屋台村」にて。メニューは各種イベントで今やおなじみとなった、セネガルの代表的な料理とおやつ。ヤーサ（レモンの酸味が利いたチキンシチュー）、マーフェ（ピーナツソースのビーフシチュー）、ベニエ（丸いドーナツ）、そして日曜日にはアターヤ（セネガル・スタイルのミントティー）も予定しています。

物販は階段上の「ワールドバザール」にて。セネガルの布バッグやポーチ、アクセサリ、雑貨、絵本や書籍などを販売します。バッグとポーチは新デザインも6種類ほど登場！ぜひご来場ください。

《お知らせ》

【1】 公式メールアドレスが変わりました。

2018年1月より、ホームページの「お問合せはこちら」をクリックしていただくと出てくるメールのアドレスが変更になりました。

アドレス帳等に登録されている方はご変更をお願いいたします。現在、旧アドレスも受信しておりますが、間もなく使用できなくなりますのでご注意ください。

新メールアドレス info.the.baobab.assoc@gmail.com

※ホームページからは新アドレスでご連絡いただけます。

【2】 バオバブの会のFace Bookページを開設しました。

イベントや活動の最新情報をより身近に感じていただけるよう、投稿や写真で情報発信していきます。ぜひ、フォローしていただけますようお願いいたします。コメントもどしどしお寄せください。お待ちしております！

下記のFace Bookページ名またはURLで検索してください。

Face Bookページ名：バオバブの会The Baobab Association

URL：<http://www.facebook.com/the.baobab.association>

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第26回 終わりを考える

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

「どんなことについても、終わりを考えねばならない」

こう言うのはアルジェリアの人々です。念のため申し上げますが、アルジェリアもアフリカの国のひとつです。モロッコで学生時代を送っていたとき、学友たちは、街角で出会う人々と同様、私の国のことを話すとき、いつもこう言いました。「君たち、アフリカ人は…」これは、アルジェリアでもチュニジアでも同じだと思います。彼ら、マグレブの国の人々の感覚では、アフリカ人とは黒人であり、自分たちは黒人ではないのだからアフリカ人ではない、ということなのです。また、彼らは、セネガル人とケニヤ人、あるいはチャド人とジンバブエ人を全く区別せず、全部、一様にアフリカ人だととらえます。他でもないアフリカ大陸の上で生まれ、成長し、教育を受けた彼らが、自分たちはアフリカ人ではないと思っているのですから、日本を初めアジアの人々が、「アルジェリアもアフリカなの？」と思うのは当たり前です。

さて、このアルジェリアの人々の大多数はムスリムですが、キリスト教徒もユダヤ教徒もいます。彼らアルジェリア人、つまり白いアフリカ人は、「永遠は神様のところだけ。他のすべてのことには終わりがある」と考えています。したがって、何かを始めるときは、必ず、終わりのところまで考えておくように、と助言します。どこまで行けるのか、どんな結果を期待でき、どんな影響を及ぼすことになるのか、と考えるように、と。

私がバオバブの会の活動を始めたとき、最初の目的はとてもシンプルなものでした。すなわち、「サルム・ジャネ小学校の各学年に、必要なものを必要なだけ贈る」ということでした。そして、贈ったものは学校にあるのだから、子どもたちが進級や卒業したあともそれらは学校に残り、次に入学、進級してくる子どもたちもそれらを使うことができるだろう、と。このようなことに素人だった私は、相手にしているのは6歳から12歳の子どもであり、彼らは本やノートを乱暴に扱うことにかけては天才である、ということなど考えてもいなかったのです。ですから、すぐに、3年以上使える本はほとんどなく、毎年、かなりの冊数を新たに購入しなければならない、ということに気づきました。そのとき、初めて、「私は、この活動をいつまで続けるのだろうか？」と自問したのでした。

この学校の子どもたちが良い状態で勉強し、先生たちが教育活動をするために必要なものを提供する活動を、いつまでやらなければならないのか？ また、いつまでできるのだろうか？ 私は自分にできないことを初めてしまったのではないだろうか？ そうだとしたら、後戻りできないところまで行ってしまう前に止めるほうが、賢明なのではないだろうか？ 私の国、セネガルでは、このように言われているからです。「**続けられないことを始めるのは無駄である**」

そこで、私は、校長先生に提案しました。「村の中に菜園を作るか、ピーナツ畑を持つか、ミル（トウジンビエ）を挽く機械を買ったらどうだろう」注1と。これらは、毎年、学校に何らかの収入をもたらすはずで、それを国からくるお金に加えることで、学校運営の自立につながり、その結果、私は解放されるだろう。そうです。私は、「私の使命は終わった！」となることを考えたのでした。

セネガルでは「**腰に巻くのにもやっとのパーニュしか持っていない者は、それでンガタンを背負おうなどと考えない**」注2と言います。そのときの私がまさにそれで、サルム・ジャネ小学校に支援するだけで精一杯だったので、2番目、3番目の学校にかかわることなど思ってもいませんでした。それなのに、他の学校から次々に支援の要請がきたのです。必要で、しかも緊急な要望が。どれもこれもすぐに必要なものでしたから、やってきた順序や、緊急性の度合いや、提供できる資金に応じて、私はそれに答えるしかありませんでした。そのため、サルム・ジャネ小学校の自立計画は後回しになり、結局、日の目を見ることはありませんでした。「ここに居る人は、しばしば居ない人の分まで取る」注3とセネガルのウォロフの人々が言うとおりです。

それでも、1999年から2007年まで活動を続けることができました。運営は私一人だとはいっても、家族や友人といったまわりの人々が、私を支え、手を貸してくれたからです。この間に、私は、人は一人では何も完成できない、ということを痛感しました。ですから、仕事が増えていく中で、2008年1月20日、バオバブの会は、小さいながらNGOになったわけです。次のようなアフリカのことわざのように。「**もし早く行きたいなら、一人で歩け。遠くまで行きたいなら、みんなと一緒に歩け**」

以来、皆様のご参加とご協力のおかげで、バオバブの会は大きくなり、活動も幅広くなり、その結果、支援先も増やすことができました。昨年は、9つの小学校、2つの中学校、障がい児支援グループ、聾啞学校、そして2つのイスラム系学校に定期支援金を送り、さらに、1つの小学校にトイレを新設し、1つの小学校の菜園計画を支援することができました。

しかし、私の中には、常に、「この活動をいつまで続けるのだろうか？」という疑問がありました。そして、今年、私たちはこの問いに答えを出そうと決めました。セネガルでは「人は楽しいことには決して飽きない。けれども、少なくともいつかは休む必要がある」と言います。これを私は次のように言い換えたいと思います。「人は有用なことは少しも止めたくない。けれども、永久に続くものはないのだから、いつかは終わりにしなければならない」と。

そこで、私たちは、運営委員会でじっくり話し合い、先日の総会に提案し了承を得て、バオバブの会を、3年後、つまり2020年に閉会すると決めました。実はこのことを予想して、数年前から、支援先の各学校に、学校運営自立のためのアイデアがあるなら教えて欲しい、と話してきました。その結果、昨年、バンプガール・マサンバ小学校の学校菜園計画への資金提供ができたのですが、他の学校からも、菜園や鶏小屋を作る計画が届いています。まもなく、支援先に、＜3年で活動終了＞を知らせることになりますので、自立計画への支援要請も増えてくることが予想されます。

今、私たちは、活動終了に向かう3年間の出発点にいます。しかし、終わることは、始めるよりも大変なのです。これは少し戦争に似ています。戦争を終わるのは、始めるよりもずっと難しいのです。したがって、バオバブの会は、皆様のより多くのご支援を必要としています。すべての形ですが、とりわけ資金面で。2020年に、私たちが受け入れたすべての計画を成し遂げることができたとき、私たちは、＜バオバブの会は止めたのではなく、使命を成し遂げたのだ＞と行うことができるでしょう。そのために、皆様の一層のご支援に心から期待しています。どうぞよろしく願いいたします。

注1 学校が菜園をもったりピーナツ畑を作ると、収穫されたものは、子どもたちの給食に使われたり、村の人々に売って収入を得ることができます。伝統的な主食であるミル（トゥジンビエ）を挽く機械も、学校にあれば、村の人々に有料で使ってもらい、これも収入につながります。

注2 パーニユはいわゆる＜腰巻布＞ですが、赤ちゃんをおんぶしたり、ものを背負うのにも使われます。ンガタン（Ngatan）は、ベッドの台で、竹や木の枝やミルの太い茎を組んで作り、上にマットレスを載せますが、しばしば、＜幅の広いもの＞の譬えに使われます。腰に巻くのやっとのパーニユなら、赤ちゃんならともかく、ガタンを背負おうとは思いません。このことわざは、「自分の力はこれだけ、と思っている人は、もっと大きなことをやろうとは思わない」という意味になります。

注3 例えば、ここにチェブジェン（セネガルの国民食と言われている、魚の炊き込みご飯）1皿があるとします。家族6人で食べることにするので、初めは、たまたまそこにはいない2人の分をよけておきます。ところが、チェブジェンはとてもおいしい上、ここにいる4人はとてもお腹が空いていてもっと食べたい。すると、いつの間にか、よけておいたはずの2人の分も食べてしまう。また、こんなこともあります。将来、家を建てようと思って、お金を貯めておきます。ところが、家族の誰かが病気になった。冷蔵庫が壊れて、買わなければならなくなった。来週、遠くへ出かけなければならなくなった… など、次々にお金を使うことができて、そのうちに、家を建てるために取っておいたお金がなくなってしまった。つまり、目の前の必要や要求のほうが、優先されてしまう、ということですね。

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215